

今夏、原発ゼロでも電力は足りていた！！

大飯原発3号機・4号機は無念にも稼働されてしまいました・・・
しかし・・・！

6月16日、政府は大飯原発再稼働を正式決定し、大飯原発3号機の再起動（7/1）、大飯原発4号機の再起動（7/18）としました。そして関西電力は7月6～9日にかけて火力発電所を8基も休止して、電力供給力を故意に落とし、大飯原発の再稼働必要論を宣伝するための必死の「電力不足演出」を行いました。

火力、水力、揚水、自然エネルギー、民間企業からの他社受電、他電力会社からの融通、それぞれの電源別の今夏の最大値を使って、関西電力の「原発なし」の最大可能供給力を調べた結果も発表されています。すると関西電力は、火力停止の批判を受けたため、一度休止した火力を動かしていたことが判明し、一時は766万キロワットまで落とした火力が、7月18～19日、7月30～31日にかけて1470万キロワットになっていたのです。

わが国で最も原発依存度の高い関西電力において 「原発ゼロ」でも最高猛暑日に24%も供給力が有り余っている！？

今夏は8月24日現在までに関西電力管内で最大電力需要を更新したのは、7月17～18日、7月26～27日、8月3日の3回の猛暑日でした。その内8月3日の最高猛暑日においても最大需要（ピーク）時に24%もの余力がありました。昨年のピーク電力を記録した日より、今年のピーク電力を記録した8月3日が大阪市の気温で1.1℃も高かったのにピーク電力需要は今年の方が95万キロワットも小さかったのです。

夏に突入する前に政府と電力会社が「原発必要論」を国民に押しつけようと「がまんの節電要請キャンペーン」を展開するために使ったと言われています。しかし節電で減る一日の総消費電力とピーク電力は直接の比例関係がありません！では何がピーク電力削減に効果的だったのでしょうか！？

関西では自然エネルギー（再生可能エネルギー）がほとんど供給力に寄与していません。家庭での節電も主に夕刻以降なので日中のピークカットにはほとんど寄与していないのです。

一般企業が自家発電とバッテリーを大量に普及し、産業界全体がガスヒートポンプエアコンやコジェネのエコウィルなど優れた省エネ技術導入に取り組んだから日中の業務用・産業用のピーク電力消費が大幅に減ったとも言われています。

そしてもう一つ大きなポイントは、関西電力に融通できる西日本の電力5社の余裕が8月3日の最高猛暑日において中部電力206、北陸電力46、中国電力113、四国電力87、九州電力はなんと217万キロワットの余力電力がありました。しかも全て「原発ゼロ」での余力なのです。

**電力があり余っている事実から実証するとその結果から
「原発ゼロ」でも電力は足りる＝「原発不要」です！**